

10年後のぼくらの海へ



© 鹿児島県ぐりぶー・さくら

ぼくは家族で行くつりが大好きです。ぴちぴちとはねる元気な魚が
つれた時、とてもうれしいです。でも、たまにごみがひっかかったり、
おか子のふくろやかんが、ぷかぷかういていて「きたないな」と
思うことがあります。

この夏、クラスのみんなで半日かけて、学校の近くの、海のごみ拾いを
しました。ペットボトルやライター。ジュースのかんやメガネも落ちてい
て「こんな物まで落ちてるの！」と、びっくりしたんだ。

ごみのりょうは、なんと大きなふくろで39ふくろも集まったの。

「なんでごみをすてる人がいるのだろう」たくさんのゴミが海の中で
ちらかっていると思うと、「海はゴミばこじゃないのに」って思うんだ。

『ごみはすてない』ぼくたち子どもでも知っている社会のルールなのに。

海の魚たちがごみの中で生活してるって思うと、

とてもかわいそうだよね。

ぼくも、ごみだらけの部屋で生活するのはいやだよ。

気持ちが悪いし、びょう気になると思う。

だから、魚の気持ちが分かるんだ。

間ちがえて、ごみを食べたりしたりしたら大へんだよね。

ぼくはごみが分かるからぜっ対に食べたりはしないけれど、

魚や鳥たちはごみをえさだと思って食べて、

大へんなことになっちゃうよね。

学校で、ごみ拾いをした次の月、またクラスみんなで海に行ったんだ。

今どはぼくたちがきれいにした海に、マダイのち魚を1万びきほうりゅうしたの。

「また会おうねー」って言われてる気がしたよ。マダイたちが、

海で大きくなってたまごをたくさんうんで。

そしてその子どもがたまごをうんで・・・と、

海がぼくたちのほうりゅうした魚でいっぱいになっていたら、

ぼくはとてもうれしいな。

10年後、ごみのないきれいな青い海とすなはまが広がって

きっとそこには魚たちがたくさん住んでいるはず。

10年後のつりも、楽しみにしているよ。



出水市立米ノ津小学校 3年 福永 柊吾